

4. 労働学校 学校は組合員ばかりでなく、組合外の労働者にも入学の機会を與へなければならぬ。一般的に公開するが故に学校の質が低下すると心配することは無用である。何故ならば学校は相当長期に亘る努力と授業料と生徒からの要求するものであるから熱心でなければ誰れも入学する気にならぬからである。学校の目的は一般社会に開する基礎知識をプロレタリア階級の立場から與へて、現在の経済組織政治機構その他一切の社会的現象に対し將來學生自ら批判を下し得る能力を持たせうにある。従つてそこに於ける教授法は組織的であつて學生の理解力の高揚につれて深きより深きに及ぶものでなければならぬ。單に然個々の科目を並列して其の向に何等の組織的統一乃至百貨店式の智識の安売りは駄目だ、科目の撰擇とその体系的配列とは重要である。それに関聯して教師の撰狀も學校の致命的問題の一つである。教師は充分の智識を蓄へておかなければならぬ事は当然だが、それより肝心なことはその者の階級意識である。同一争柄と言へどもそれに対する見方の相違（階級意識の相違）によつて意義が全く相反する場合が多い。學校の目的が批判能力を學生に與へ彼等の意識を

高揚せしめるにある。以上は教師の意識がその指導に思入るものでなくばならぬ。大体に於て労働學校の教師は、智識階級出身で永らく労働運動の實際に携はり経丁に於て階級的東切り行為がなかつたものであるならば尚ほない。辯舌の巧拙の如きは並二次的向題である。學校の管理者は單なる事務取扱ひ或は看板であつてはならぬ。學校の全体的効果如何はその管理振りの上に依ること甚だ大なるものがある。學校管理者は演説会の司会者の如く、學校の行進に對して全責任を與へ生徒を監督し教師を統制し學校をして一つの統一ある運動の中心とならぬ。その任務遂行の爲には無論彼にそれ相等の権限を附與さねばならぬ。例へばそれには彼の意見によつて教師が自分の講義の内容に制限を加へるることあるとも、それによつて不服を言はぬ如きである。相当永の學期を持つ學校ならば生徒のみの委員会を組織せしめ、その責任を以て學校の管理体をなすこと最良の方法である。本組織等は卒業と同時に組合に組織されればならぬ。若し組合に組織し得ざる立場にあるならば、校友会等はその他何等かの組織に結合せしめ決して離れからぬを放つたがうに學校から罷り去